

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000084		
法人名	株式会社 森津介護サービス (ももユニット)		
事業所名	グループホーム森津苑		
所在地	愛知県豊田市大島町栄25番1		
自己評価作成日	平成26年2月6日	評価結果市町村受理日	平成26年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosyoCd=2393000084-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てのホームに広い芝生広場があり開放的な空間は、ご利用者様・ご家族様・ご訪問者の方にもとても評判です。また広い庭は、年3回の大きな行事(バーベキュー大会・秋祭り・餅つき大会)や日々の散歩にもご利用いただいております。またホーム内でもご利用者様は私たちの家族としてお迎えし、温かく家庭的な雰囲気を大切に、ご利用者様がその方らしく暮らし続けられるお手伝いをさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人では、利用者には「土の香り」を味わってほしいという思いがあり、法人が運営しているホームは広大な敷地を確保しており、ホーム建物も平屋建てとなっている。当ホームも広大な敷地を確保しており、利用者がホームの中で圧迫感を感じることなく過ごすことができる環境づくりに取り組んでいる。家族との関係づくりについても積極的に取り組んでおり、ホームが開催しているバーベキュー会には、多くの家族の参加が得られており、法人代表者やホーム管理者が、家族との交流の機会を持ちながら、日頃の意見や要望等についての確認を行うように取り組んでいる。また、医療面においても、運営法人が元々の関係が続けていた認知症専門医による往診が当ホームでも行われており、一人ひとりの症状に合わせたホームでの生活が実現できるように、ホームでも支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を忘れず、職員間で共有し実践できるよう取り組んでいる。	運営法人がつくっている社是の他に、ホーム独自の理念をつくっており、職員が思いやりを大切にすることを指した内容となっている。また、理念を事務室にも掲示しており、職員の振り返りの機会をつくるように取り組んでいる。	運営法人では社是に基づいた支援を行うように、基本理念の共有をすすめている。具体的な目標をつくりながら、理念の共有と実践につながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りやふれあいサロンにも参加し積極的に取り組んでいる。	町内会に入り、回覧板もまわってくることで、地域の情報を得るように取り組んでいる。また、中学生の受け入れや、ホームが開催している秋祭りや餅つきの際には、地域の方にも案内を行っており、参加も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際区長様や地域包括様にも参加していただき理解・協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換できるよい場とし改善案など話し合っている。	会議には、複数の家族の参加が得られており、会議を通じて家族間の交流にもつながっている。また、会議後の時間にホームの行事であるバーベキュー会を開催しており、ホームを知ってもらう機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度市の職員さんがおみえになり意見交換を行っている。	市の講習会や研修会の際には、ホームからも管理者が出席しており、必要な情報交換の機会につなげている。また、ホームには毎月、介護相談員が訪問しており、介護相談員を通じた情報交換にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。施錠は夜間のみとなっている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関やユニット入口の施錠を行っておらず、利用者への見守りに取り組んでいる。また、日常的にも、されて嫌なことはしない、という基本的な対応についても職員に伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の様子観察や入浴の際ボディチェックを必ず行い職員間で情報を交換し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり実践できておらず、今後取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解を得ていただけるよう説明を行い不明な点や質問事項についても随時受付対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議を行いご家族様の意見や要望を聞き運営に反映されている。欠席者の方にも議事録を送付し報告をしている。	ホームでは、行事を通じた家族間の交流の機会を年2回以上つくっており、利用者や家族からの意見や要望等の把握に努めている。玄関に意見箱の設置を行い、日常的にも把握に努めている。また、ホーム便りを毎月発行している。	ホームの取り組みとして、職員間で居室担当者をつくっていることもあるため、可能な範囲で、定期的な個別の便りの作成にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、報告・連絡・相談を徹底させ職員の意見も取り入れ反映している。	ユニット毎に会議を行っており、職員間での話し合いが行われており、管理者は把握した意見等を法人代表者にも伝えられている。また、管理者と法人代表者による年2回の個別面談の機会がつけられており、一人ひとりの把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者からの日々の報告を受け把握している。職員の意見や要望は常に耳を傾け改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者からの日々の報告を受け把握している。法人内外の研修に参加し働きながらのトレーニングも出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習会で知り合った他施設の方と意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者様の訴えを聞き可能な限り希望に添うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供前にはご家族様の要望などを聞き信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と職員間で話し合い無理のない、その方に合った支援ができる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や日常生活を一緒に過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や面会の歳に近況を伝えながら意見交換するようにしている。内容によっては電話でも連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会も快く受入れ、ご希望に応じて外出支援している。	利用者の馴染みの方の訪問が得られている他に、馴染みのある場所への外出も行われている。また、家族との食事や買い物や墓参りに出かけたり、孫の発表会に家族と一緒に見に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に状況を把握し、声かけを増やしたり、見守りを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も手紙のやりとりや電話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに応えられるよう話を聞いたり、こちらから問いかけるなどして努めている。	アセスメントにはセンター方式を利用しており、一人ひとりの思いの把握に努めている。また、毎月のユニット会議の時間にカンファレンスも行われており、話し合いが必要な方の人数の検討と情報の共有に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に勤めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化を見逃さずご利用者様が持っている力を見極めその力を活かせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の要望なども取り入れながら職員間で意見アイデアを出し合いながら現状に即した介護計画を作成している。	計画内容を実践につなげるため、一人ひとりの「生活目標」を表にして、実施状況を4段階評価を行っている。そこからモニタリングにつなげて変化を把握し、カンファレンスを通じて、基本6か月ごとの計画内容の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で常に情報を共有し改善策などの話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のご利用者様に常に柔軟な支援ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の力が発揮できるよう地域で安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられている。	協力医療機関より、月2回の往診と週1回看護師が訪問しており、利用者の健康チェックを行って、24時間の連絡が可能である。また、認知症専門医による月1回の往診が行われている他にも、月1回の訪問歯科も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問介護にてご利用者様の健康管理を行っている。心配な点は看護師に相談し受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行っている。退院まで情報ほ交換し合い相談員さんと連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には早い段階で、ご家族様・主治医・管理者で話し合いの場を設け方針を共有し支援している。	ホームとしては、看取りを見据えた支援を行う方針を掲げているが、現状は、最期は医療機関となることが多い。家族には、協力医にも協力してもらいながら説明を行っている。また、職員へは、必要に応じた研修会等の機会をつくっている。	協力医による24時間の連携体制が築かれていることもあり、ホームでは看取りを見据えた支援にも前向きに考えている。今後もより良い看取りの実現に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDも設置し避難訓練時に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い職員全員が身につけている。(新人についてはまだ)地域との協力体制は少しずつ築けている。	年2回の避難訓練の際には、通報装置を使用した訓練も実施している他に、消防署の立ち会いの訓練も実施している。また、倉庫内に水、食料等の備蓄が行われているが、現状、訓練の際に地域の方の参加は得られていない。	地域の方との情報交換の場をつくりながら、相互の協力関係が築けるようになることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のご利用者様を尊重し声かけを行っている。	職員の利用者に対する対応について、研修等を行っていないが、管理者より丁寧な言葉遣いをするように、日常の場面を通じて伝えている。また、トイレ介助時の声かけには耳元で言う等、プライバシーへの配慮にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる選択肢のある声かけをしご本人の思いを汲み取れるよ心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望を尊重しているが、どうしても職員側の都合になってしまうこともあるので気をつけたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力を活かせるよう出来ることに参加していたき食事が楽しみになるよう心がけている。	食材業者のメニューに基づく調理を行っているが、時には食材を止めて、行事に合わせた食事作りを行っており、買い物にも出かけている。利用者もできることを行うように、片付け等に参加している。また、ミキサー食や刻み食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の記録を夜勤者が集計して管理している余りに栄養摂取や水分摂取が出来てない時には、主治医に報告し支持を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは声掛けや介助にて行い、月に一度訪問歯科があり指示書を頂いて管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行いできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	職員は、全員の排泄状態の記録を残しながら、排泄のリズム等を把握し、それらの情報を申し送りの際に共有しながら、トイレでの排泄を目指している。以前はオムツの中で排泄していた方も、ホームではトイレで排泄するように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷たい牛乳や散歩をすることで自然排便を促している。トイレなどでお腹の張り具合も確認しマッサージなど行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望をお聞きし入浴していただいている。	入浴を毎日準備しており、利用者の希望に合わせて、1～2日おきに入浴している。浴室にリフトを設置しており、重度の中も浴槽に入ることができるように取り組んでいる。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯の楽しみも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその方の生活リズムに合わせて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スギ薬局の管理となっており安心できる。服薬時には職員のダブルチェックにより服薬していただいている。服薬変更時には申し送りノートを活用し状態の変化に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみを支援できる様努めている。気分転換できるよう少しの時間でも散歩に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様の希望に添えるようご家族様の強力を得て戸外へ出かけることもしている。	職員は、天候等をみながら、利用者が日常的に外出できるように、散歩等で外に出ている他に、個別の希望を把握した外出支援にも取り組んでいる。年2回、遠出をする機会もつくっており、県外の公園にも出かけ、その際には、家族の参加も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を正しく理解できない方でもこちらで管理をし、一緒に買い物に行った先で支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活館・季節感を取り入れている。	リビング内はゆったりとした空間を確保しており、リビングが南向きであるため、採光に優れた環境となっている。また、リビングから居室に続く通路には、利用者の日頃の様子や行事の写真等を貼っており、利用者の思い出づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員の関係を把握し、必要に応じて席替えを行うなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様とご家族様の好きに居室を飾っていただいている。	居室には、利用者が使い慣れた家具類を持ち込んだり、希望に合わせてテレビ等を設置している方もいる。また、居室内のベッドについては備え付けとなっているが、希望により畳マットを敷いて布団で寝起きをしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いらないものを置かず安全に配慮し自立した生活ができるよう段差がなく手すりを設置している。トイレや居室には名前を掲げている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム森津苑

目標達成計画

作成日: 平成 26年 5月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念を共有し具体的な目標を作りながら実践していけるとよいのでは。	具体的な目標を含んだ分かりやすい理念を掲げる。	来月のユニット会議までに理念を見直し定め、スタッフと共有する。	12ヶ月
2	10	森津苑だよりの内容をもう一步充実させるとよいのでは。	森津苑だよりの見直しをし、ご家族様にもっと喜んでいただける内容にしていく。	ご利用者様の担当スタッフより月に一度、ご家族様へご利用者様の状態をお伝えしていく森津苑通信を作成する。	12ヶ月
3	33	看取りについて前向きであるために、グループホームには、重度化している。	看取りを前向きに考えているので重度化は仕方ない。スタッフのモチベーションを保つことに力を入れる。	ご利用者様の情報を常に共有し、必要に応じた勉強会を開催する。	12ヶ月
4	35	災害時に近隣の方に援助をして頂けるのか。	地域の防災訓練に、こちらから参加することで地域との交流を深める。	防災訓練に限らず、地域の行事に進んで参加する。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。